

解答

- 問1 高度経済成長期以前，専業農家が多く仕事がない農閑期に長い休みを取って湯治を行うことが習慣となっていた。しかし高度経済成長期に入り，農業だけでなく工場などでも働く兼業農家が増えていった。そのため農閑期でも仕事があるため，長期の休みが取りづらくなり，温泉利用の形態が変わっていった。
- 問2 豪族が支配していた土地と民衆すべてを，天皇が支配する。
- 問3 エ
- 問4 核兵器を 持たない，つぐらない，持ちこませない
- 問5 寺子屋
- 問6 温泉発電は，地熱発電と違い新たに穴を掘る必要がないため温泉への悪影響の可能性が低く，発電所の建設費用も安くなる。また小浜温泉では源泉の温度が高いために，温度を下げるための水道代が経営者にとって負担となっていた。温泉発電を導入すると，源泉の温度は発電する途中で自然に下がり経費を節約できると同時に，電力が地域に供給できる利点がある。
- 問7 イ
- 問8 (1) ウ (2) ウ
- 問9 エ